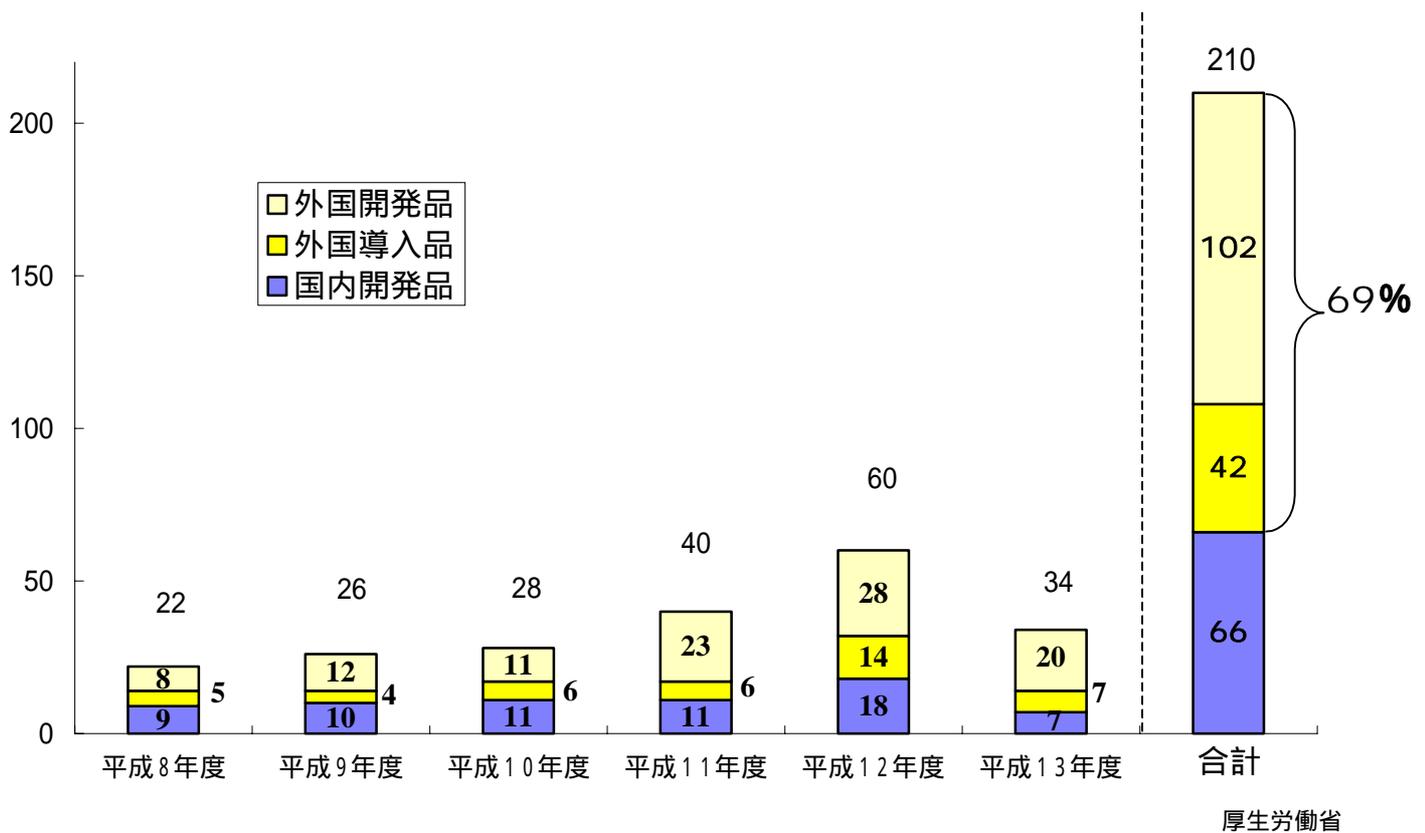
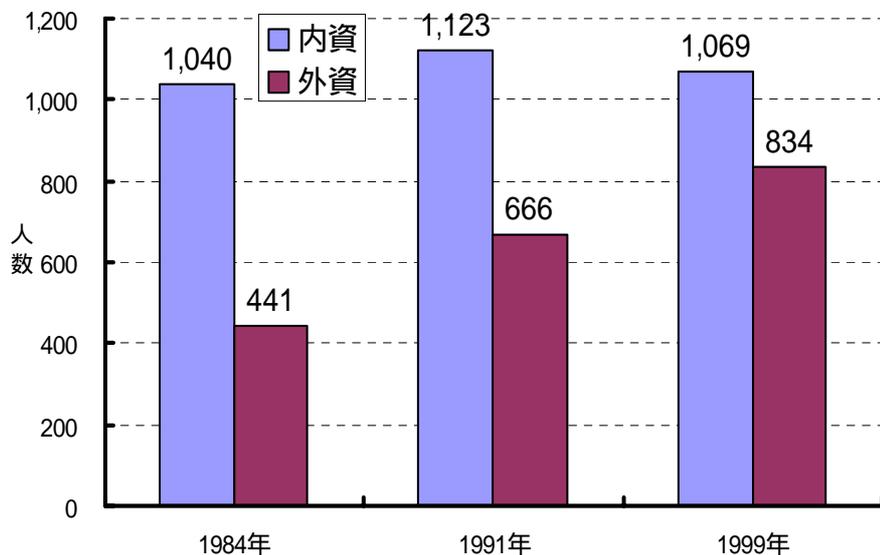


・医薬品産業を取り巻く環境の変化

1. 国内市場における外国製品の増加（平成7年中医協建議以降に収載された新薬の内訳（成分数））



2. 国内市場における外資系企業MR数の増加



対象：内資・・・武田、三共、山之内、第一、塩野義、エーザイ、藤沢、中外、田辺、大日本の10社

外資・・・バイエル、ヘキストジャパン、ファイザー、日本シェーリング、ICIファーマ、サンド、日本チバガイギー、日本ロシュ、日本グラクソ、日本アップジョン、萬有の11社

注) 1999年外資データには、サンドとチバガイギーの合併に伴い、ノバルティスの数値を採用した。したがって、対象社数は10社となっている。また、ヘキストについては、ヘキスト・マリオン・ルセルのデータを、日本グラクソはグラクソ・ウェルカムのデータを用いた。

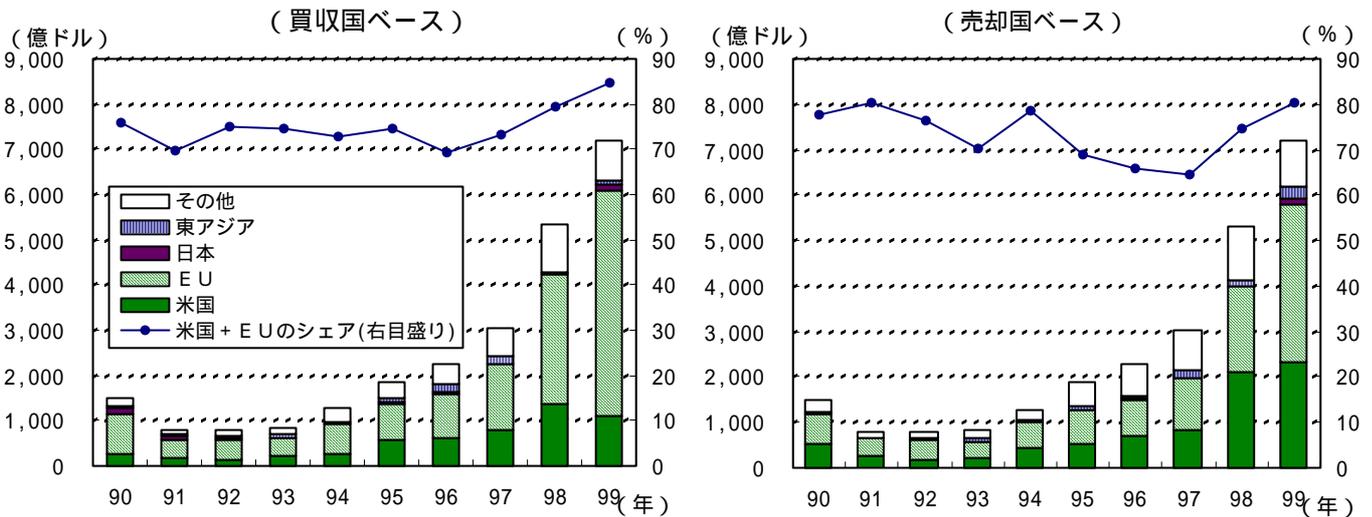
出所：「月刊ミクス」（株ミクス）、「製薬企業の実態と中期展望」（国際商業出版）

日本製薬工業協会医薬産業政策研究所「我が国の製薬産業」

### 3. 外資企業による日本企業との提携解消の動き

- ・ ノボノルディスクファーマ（デンマーク）と山之内製薬・・・販売契約解消（1998年）
- ・ モンサント（アメリカ、現ファルマシア）と大日本製薬・・・販売契約解消（1998年）
- ・ ウェルカム（イギリス、現グラクソスミスクライン）と住友製薬・・・販売契約解消（1998年）
- ・ ジョンソン&ジョンソン（アメリカ）と協和発酵・・・合併解消（2001年）
- ・ イーライ・リリー（アメリカ）と中外製薬・・・合併解消（2001年）

### 4. 世界のクロスボーダーM&A及び欧米のシェアの推移



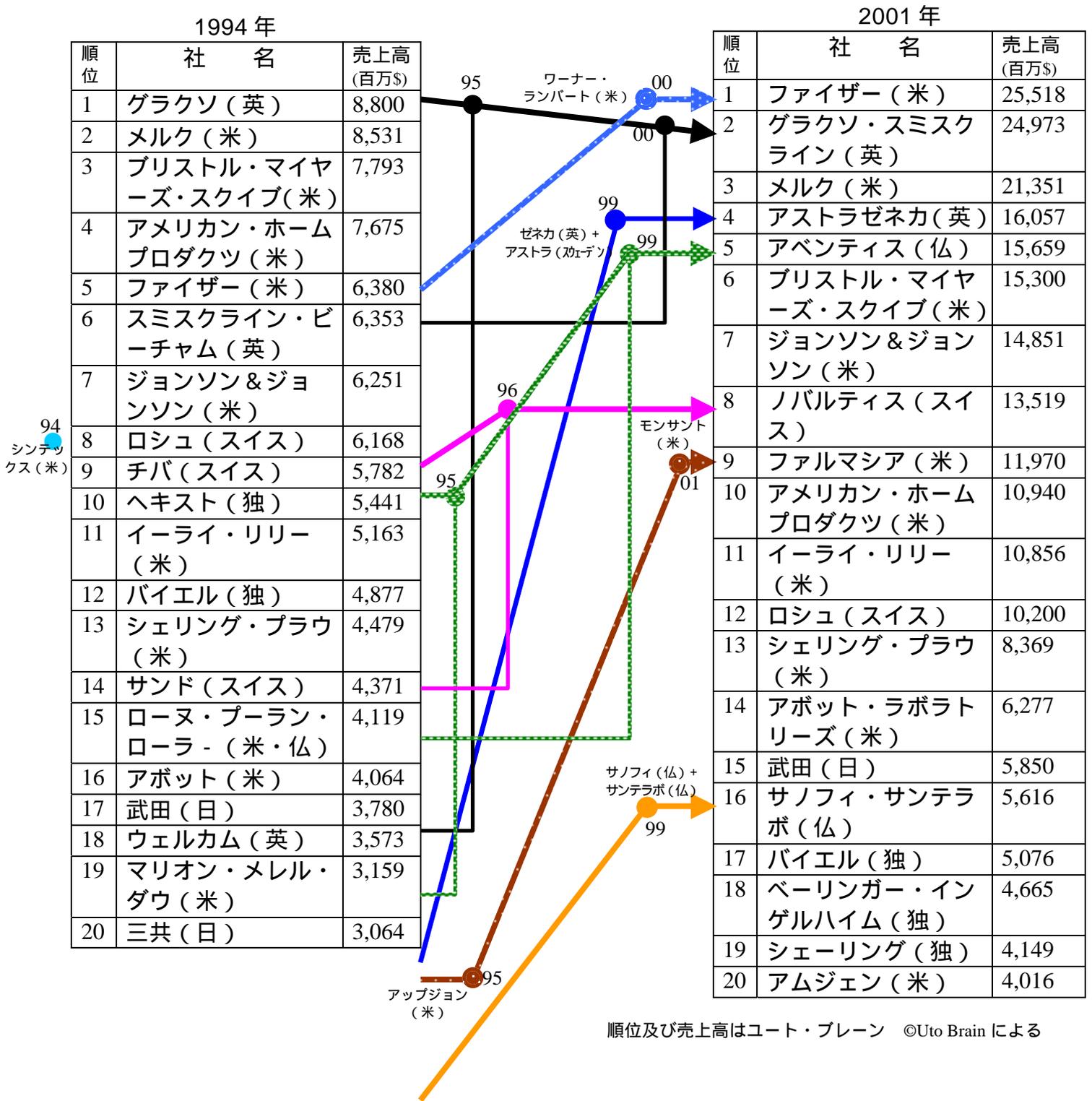
(資料) UNCTAD「WIR」より作成。  
経済産業省「平成13年版通商白書」

### 5. 世界的なM&A増加の背景

スピーディーな市場参入、経営資源獲得の重視	国際化・情報化・製品ライフサイクルの短縮化等により企業の投資活動に一層のスピードが要求されるようになった結果、新規投資（グリーンフィールド投資）よりもM&Aを通じた人材、製造ライン、顧客データ、流通網、ノウハウ等の有形無形資産の効率的な獲得が目指されるようになった。
競合企業のM&Aへの対抗	市場の拡大が限定的な成熟産業においては、ある企業がM&Aを行った場合に、規模で追い越された別の企業が均衡を保つために別の相手を捜してM&Aが行われようになった。
コーポレート・ガバナンスの強化	株主重視のコーポレート・ガバナンスという考え方が国際的に浸透してきた結果、短期間での株価上昇が期待できるM&Aが戦略的に重視されるようになった。
世界的な貿易投資の自由化、各国における自主的な規制緩和・民営化	WTOのGATS（サービス貿易一般協定）TRIM協定（貿易関連投資措置協定）の発効に伴い、各国内における差別的規制、投資制限措置が撤廃・緩和された。加えて1990年代以降主要先進各国において規制緩和・民営化が実施された結果、企業の国際的な事業展開の自由度、予見性、透明性、安定性が高まりクロスボーダーM&Aが促進された。

(資料) 日本貿易振興会（2001a）より作成。  
経済産業省「平成13年版通商白書」

6. M & A 旋風による国際製薬業界の大再編



2002年7月、ファイザーがファルマシアを買収すると発表。

## 7. 大型新薬と研究開発費

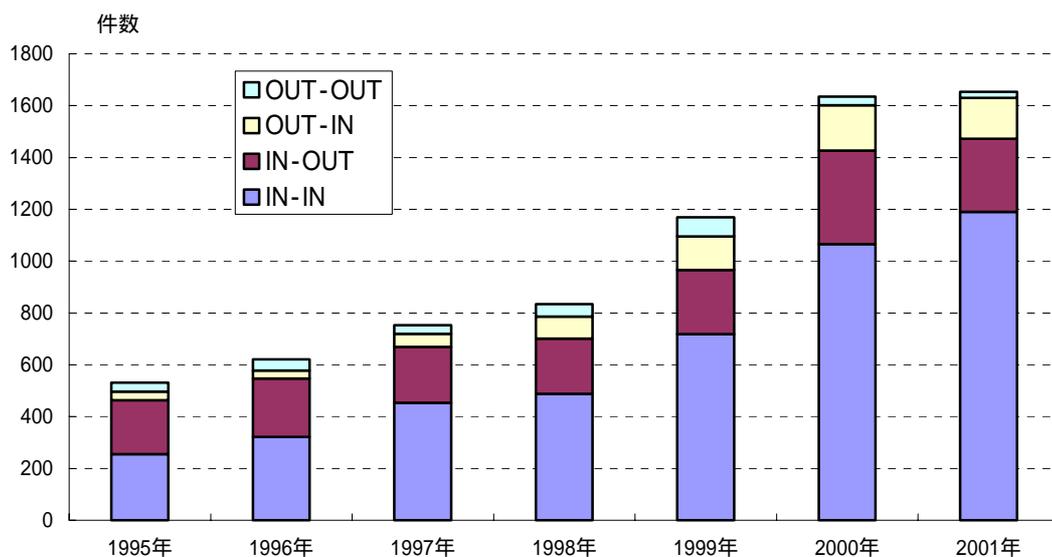
(百万ドル)

メーカー名		合併会社	99年売上げ5億 ドル以上品目数	85年～90年ま での開発費総額	99年の開発費
グラクソ・スミス・クライン	イギリス イギリス	グラクソ・ウェルカム スミスクライン・ピーチャム	13	7,126	3,697
ファイザー	アメリカ	ファイザー ワーナー・ランバート	12	4,257	4,035
メルク	アメリカ		10	3,746	2,068
プリストル・マイヤーズスクイブ	アメリカ	プリストル・マイヤーズ スクイブ	6	3,808	1,843
ジョンソン&ジョンソン	アメリカ		6	3,836	2,600
ノバルティス	スイス スイス	サンド チバ・ガイギー	5	12,790	2,654
アベンティス	ドイツ フランス	ヘキスト ローヌ・プーラン	4	13,822	3,052
ロシュ	スイス		4	5,818	2,364

第一製薬	日本		3	700	335
武田薬品	日本		2	1,825	757
山之内製薬	日本		2	807	537
三共	日本		1	1,004	631
中外製薬	日本		1	722	392

厚生労働省

## 8. マーケット別M & A件数の推移



(注) マーケットの定義について、「in-in」は日本企業同士のM&A。「in-out」は日本企業による外国企業へのM&A。「out-in」は外国企業による日本企業へのM&A。「out-out」は日本企業が海外で資本参加や買収などをした企業が絡むM&A。

レコフ「M&A統計」より作成

9. 合併による国内医薬品売上高ランキング(2000年4月~2001年3月)

順位	社名	総売上高	医薬品売上高
1	武田薬品工業	773,096	582,886
2	三共	417,586	367,930
3	山之内製薬	302,531	302,531
4	大正製薬	269,511	249,004
5	エーザイ	258,615	228,900
6	第一製薬	261,350	227,450
7	藤沢薬品工業	207,846	189,696
8	塩野義製薬	215,894	186,055
9	中外製薬	181,223	181,223
10	万有製薬	169,747	169,747
11	大塚製薬	345,517	161,988
12	田辺製薬	184,701	161,568
13	ファイザー製薬	170,050	156,710
14	ノバルティス ファーマ	144,300	144,300
15	グラクソ・スミスクライン	148,700	138,800
16	小野薬品工業	129,384	129,384
17	協和発酵工業	306,653	127,300
18	ウェルファイド	125,102	125,102
19	アベンティスファーマ	121,300	115,200
20	住友製薬	125,859	113,965
21	大日本製薬	145,905	110,000
22	明治製菓	264,209	109,859
23	大鵬薬品工業	92,867	92,867
24	バイエル薬品	90,639	89,846
25	アストラゼネカ	85,700	85,700
26	三菱東京製薬	84,218	83,411
27	参天製薬	84,295	81,831
28	ファルマシア	90,170	81,533
29	日本ベーリンガーインゲルハイム	75,193	72,533
30	帝人	272,658	71,308
31	ノバルディスク ファーマ	65,460	65,460
32	興和新薬	65,310	65,000
33	エスエス製薬	65,151	64,217
34	日本シェーリング	64,004	63,945
35	日本ロシュ	65,700	61,500
36	科研製薬	68,331	60,287
37	ツムラ	72,703	60,021
38	久光製薬	62,390	57,621
39	持田製薬	63,917	55,335
40	キッセイ薬品工業	55,016	53,221

順位	社名	総売上高	医薬品売上高
1	武田薬品工業	773,096	582,886
2	三共	417,586	367,930
3	山之内製薬	302,531	302,531
4	大正製薬	269,511	249,004
5	中外製薬 + 日本ロシュ	246,923	242,723
6	エーザイ	258,615	228,900
7	第一製薬	261,350	227,450
8	三菱ウェルファーマ	209,320	208,513
9	藤沢薬品工業	207,846	189,696
10	塩野義製薬	215,894	186,055
11	万有製薬	169,747	169,747
12	大塚製薬	345,517	161,988
13	田辺製薬	184,701	161,568
14	ファイザー製薬	170,050	156,710
15	ノバルティス ファーマ	144,300	144,300
16	グラクソ・スミスクライン	148,700	138,800
17	NBI + エスエス製薬	140,344	136,750
18	小野薬品工業	129,384	129,384
19	協和発酵工業	306,653	127,300
20	アベンティスファーマ	121,300	115,200
21	住友製薬	125,859	113,965
22	大日本製薬	145,905	110,000
23	明治製菓	264,209	109,859
24	大鵬薬品工業	92,867	92,867
25	バイエル薬品	90,639	89,846
26	アストラゼネカ	85,700	85,700
27	参天製薬	84,295	81,831
28	ファルマシア	90,170	81,533
29	帝人	272,658	71,308
30	ノバルディスク ファーマ	65,460	65,460
31	興和新薬	65,310	65,000
32	日本シェーリング	64,004	63,945
33	科研製薬	68,331	60,287
34	ツムラ	72,703	60,021
35	久光製薬	62,390	57,621
36	持田製薬	63,917	55,335
37	キッセイ薬品工業	55,016	53,221
38	ゼリア新薬工業	55,107	52,733
39	杏林製薬	54,671	51,504
40	旭化成	49,100	49,100

(注)一部推定

出典: 矢野経済研究所(医薬産業年鑑2002年版)

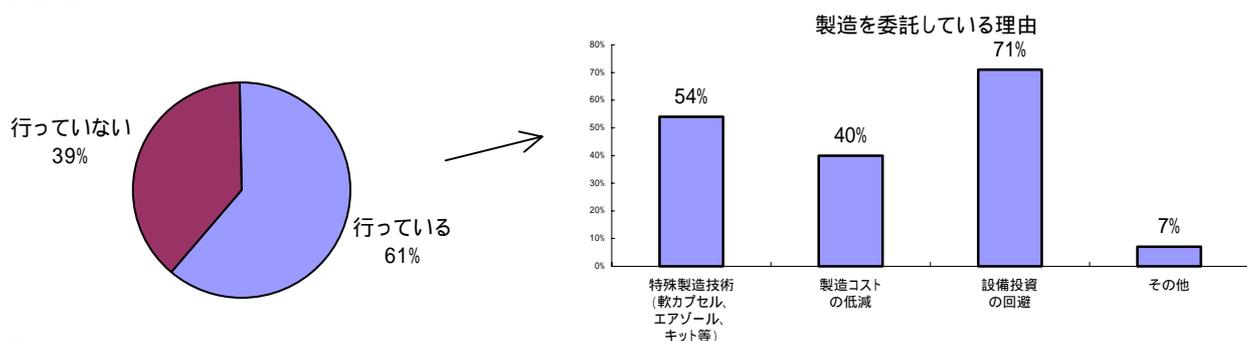
## 10. 外国人持株比率ランキング (2001年3月末)

順位	社名	持株比率 (%)	前年比増減率 (ポイント)
1 (3)	山之内製薬	42.8	4.5
2 (15)	中外製薬	42.1	8.4
3 (1)	ソニー	39.7	4.9
4 (2)	ローム	39.5	3.4
5 (7)	オリックス	39.3	2.6
6 (12)	三井海上火災保険	38.9	4.2
6 (-)	ヤマダ電機	38.9	9.1
8 (20)	塩野義製薬	38.4	7.2
9 (11)	富士写真フイルム	37.4	1.8
10 (4)	東京エレクトロン	36.2	1.2
11 (6)	TDK	36.1	0.7
12 (-)	コナミ	35.4	4.7
13 (25)	三共	35.3	5.2
13 (14)	ミネベア	35.3	1.1
15 (-)	コマツ	35.1	8.3

注：カッコ内は前年順位、- は 31 位以下、マイナス 日本経済新聞 (2001.6.27) より

## 11. 委託製造・受託製造の状況

### (1) 委託製造の状況



#### 委託品目数

・医療用医薬品 9.5% (1,004 品目 / 10,590 品目) ・一般用医薬品 12.1% (876 品目 / 7,221 品目)

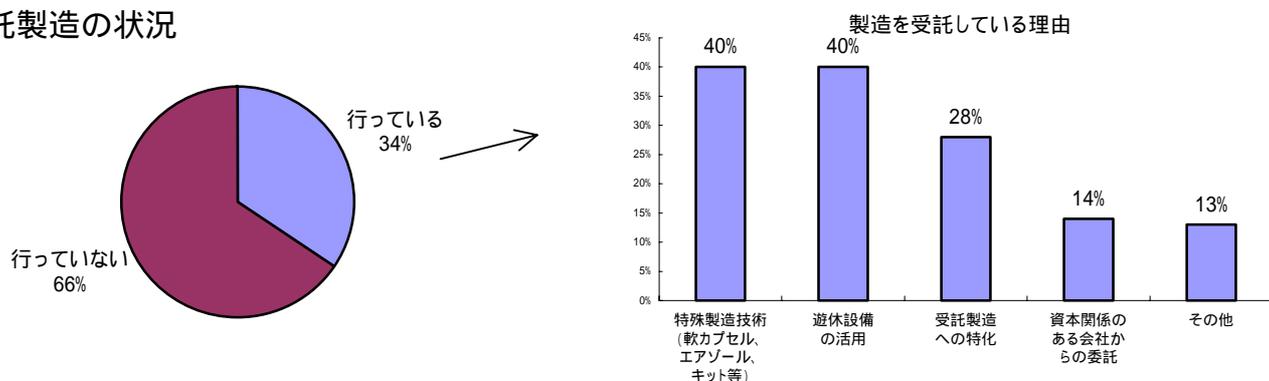
#### 委託先

・資本関係のある会社 10.4% (18 社 / 173 社) ・その他契約した会社 92.5% (160 社 / 173 社)

全行程を委託できないためにやむを得ず製造委託先に承認の承継をした事例

・事例あり 23 社 (101 品目) ・事例なし 150 社

### (2) 受託製造の状況



#### 受託品目数

・医療用医薬品 9.5% (595 品目 / 6,295 品目) ・一般用医薬品 16.4% (576 品目 / 3,515 品目)

#### 受託先

・資本関係のある会社 17.3% (17 社 / 98 社) ・その他契約した会社 90.8% (89 社 / 98 社)

日本製薬団体連合会「委受託アンケート」結果より

## 1.2. ミレニアム・プロジェクトの目標：2004年までの5カ年計画

〔ヒトゲノム解析を突破口とした5大疾患の克服〕

痴呆関連遺伝子を20以上発見し、入院患者数を20%削減できる新薬を開発

がん関連遺伝子を50以上発見し、抗ガン剤による副作用を50%軽減、5年間生存率を20%改善する新薬を開発

糖尿病・高脂血症関連遺伝子を30以上発見し、糖尿病の入院患者を20%削減し、合併症を50%削減する新薬を開発

高血圧等循環器疾患関連遺伝子を30以上発見し、脳卒中の受診率を20%削減する新薬を開発

気管支喘息等免疫・アレルギー疾患関係遺伝子を20以上発見し、喘息の死亡者数を20%削減する新薬を開発

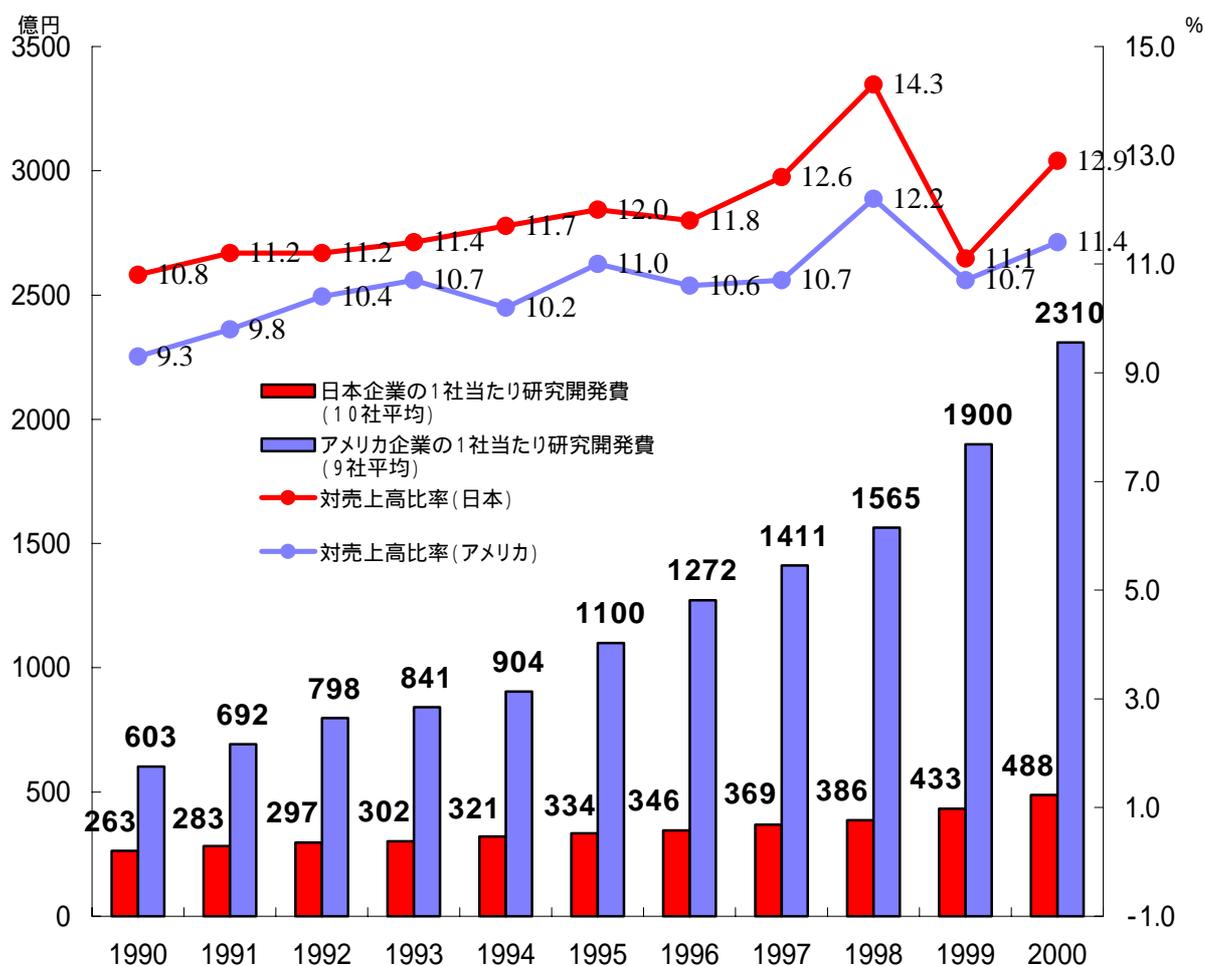
## 1.3. メディカル・フロンティア戦略の目標：2005年までの5カ年計画

がん患者の5年生存率（治癒率）の20%改善

心筋梗塞・脳卒中の死亡率を25%低減（年間5万人以上）

自立している高齢者の割合を、5年後に90%程度（現在は約87%）に高め、疾病等により支援が必要な高齢者を70万人程度減らすこと

## 1.4. 研究開発費及び研究開発費の売上高に対する比率の日米比較



1999年、2000年は連結ベース

対売上高研究開発費率 = 総研究開発費 / 総売上高対象企業

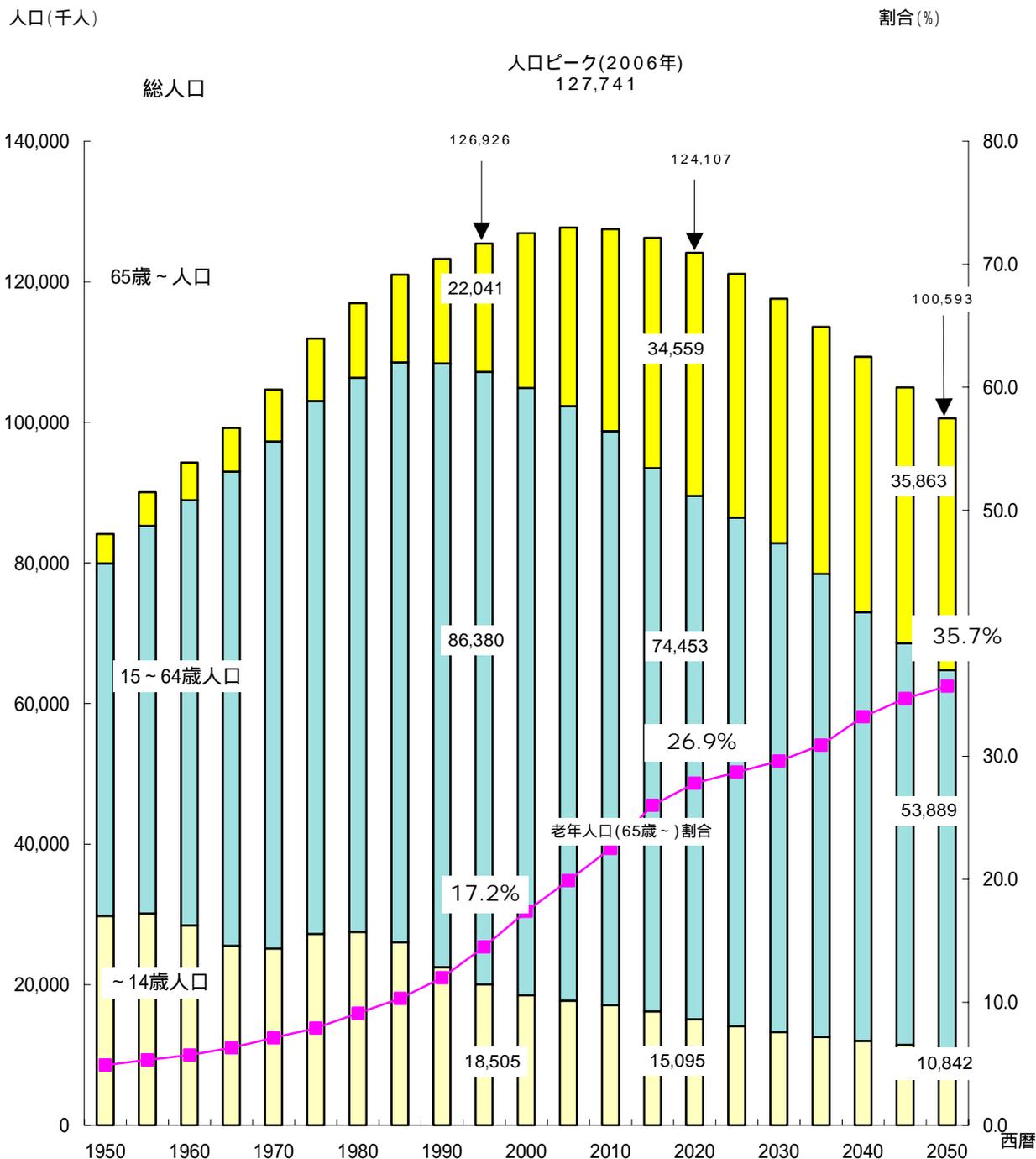
(日本) 武田、三共、山之内、第一、大正、エーザイ、塩野義、藤沢、中外、田辺

(米国) アボット、アメリカン・ホーム・プロダクツ、プリストル・マイヤーズ・スクイブ、

イーライ・リリー、ジョンソン & ジョンソン、メルク、ファイザー、ファルマシア、シェリング・プラウ

日本製薬工業協会 「DATA BOOK 2002」

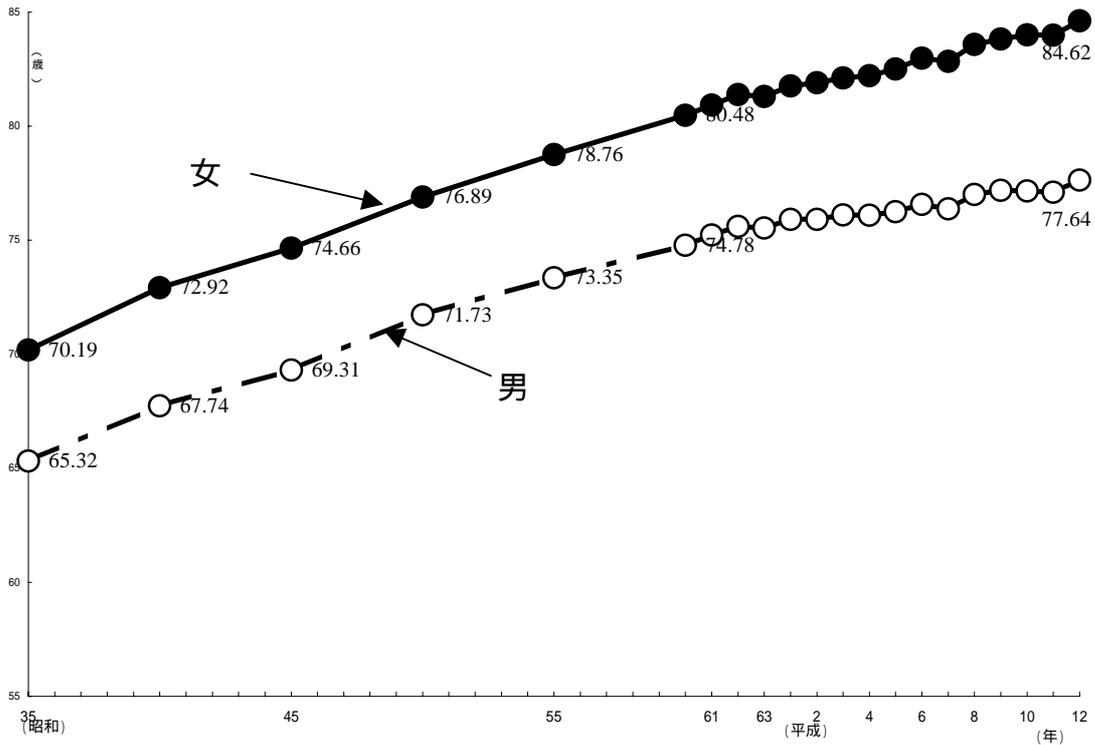
# 15. 高齢化の推移と将来推計 (1950~2050年)



1995年まで：総務庁「国勢調査」

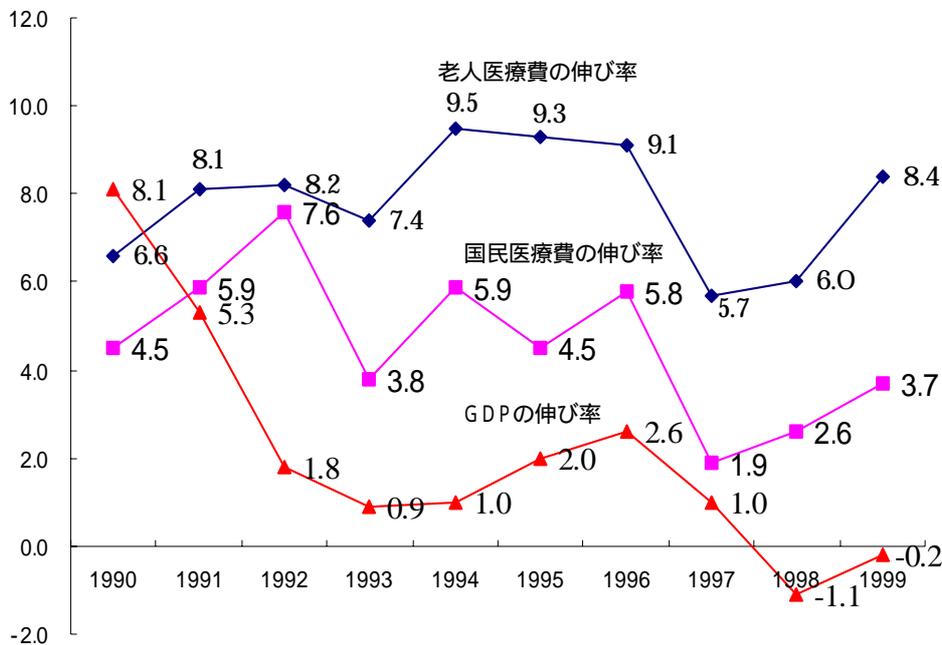
2000年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(中位推計)

## 16. 平均寿命の推移



厚生労働省「2001年簡易生命表」

## 17. 国民医療費・老人医療費の推移と経済の動向

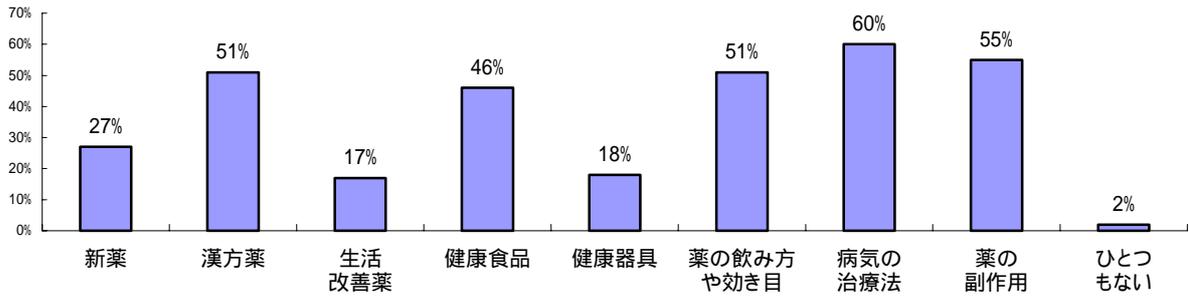


### 過去10年間の年平均伸び率

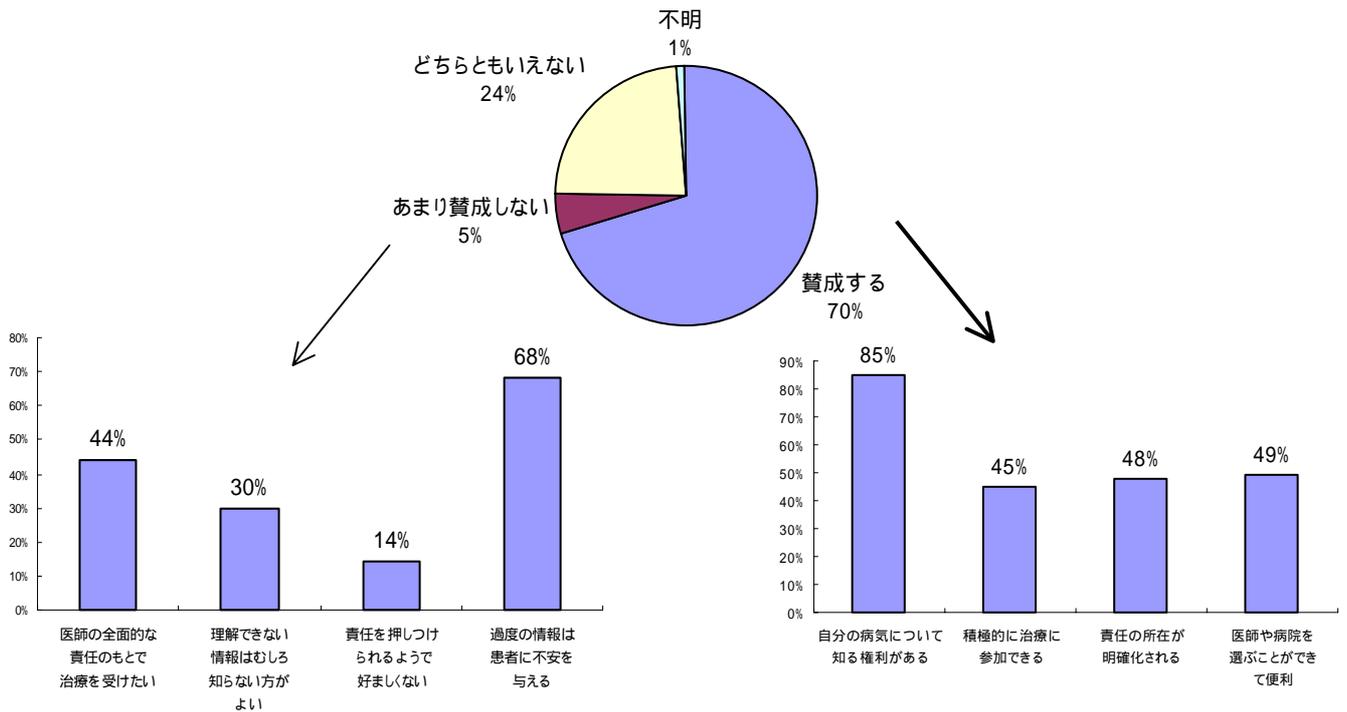
国民医療費 (若人、老人を含む全体の医療費)	4.6%
老人医療費	7.8%
高齢者数	4.2%
GDP	2.1%

内閣府「国民経済計算」 厚生労働省「国民医療費」

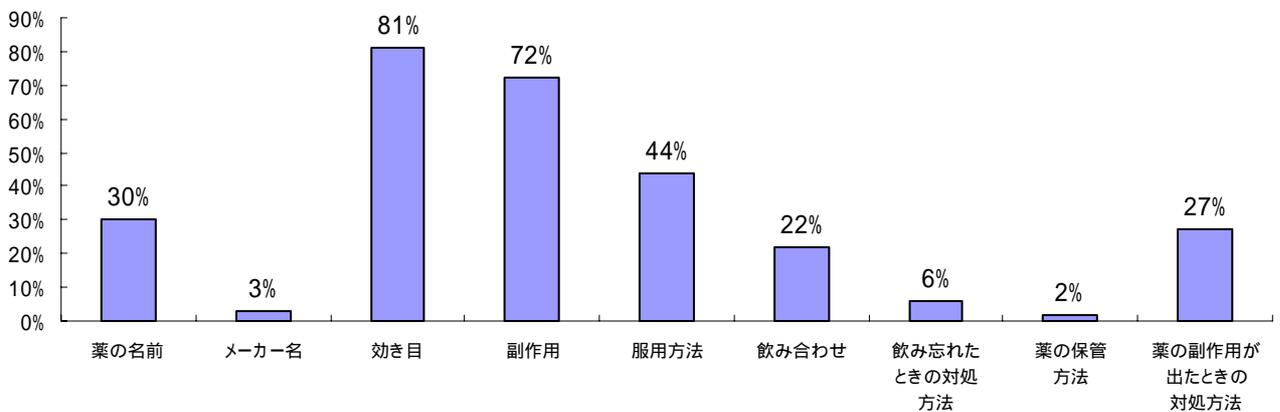
## 18. 国民の関心の強い健康情報



## 19. 国民の医療全般に対する情報開示への考え



## 20. 薬をもらう時に国民が知りたい情報



17 から 19 まで「医師・一般市民の医薬品および医療に関する意識調査 (2000.3)」日本 RAD-AR 協議会